

**【提案】**

日々の実践を通して、主体的に問題を解決していく力と、社会的事象の意味について考える力、自分の考えを深め、広げる力を育むことに難しさを感じてきた。そこで、「つかむ→調べる→まとめる→生かす」の体験・調査を重視した問題解決的な学習過程を充実させることで、資料を活用して事実を丹念に調べ、その上で自分の考えをもち、それを伝え合う力を育めることを目指した。



【児童の関心を高める資料提示】

**1 実践のポイント**

**(1) 児童の関心・意欲を高めるための体験活動**

単元の導入においては、自動車生産を身近に感じさせるために自動車のエンジンルームや室内のインテリア等に使われている部品を中心に見学させ、関心を高める。

**(2) 資料を活用して事実を丹念に調べる時間の確保と支援の充実**

資料を活用し問題把握や課題追究等する際、「資料の読み取り方マニュアル」を活用することで、児童が社会的事象の見方・考え方を働かせて取り組めるようにする。また、併せて資料をもとにした言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を育む場と時間を学習計画に位置づける。

## 2 実践の位置付け

### (1) 小学校学習指導要領との関連

内容(5) 我が国の工業生産について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- ア(イ) 工業生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、工業生産を支えていることを理解する。
- イ(イ) 製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、工業生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること。
- ウ(ウ) 交通網の広がり、外国との関わりなどに着目して、貿易や運輸の様子を捉え、それらの役割を考え、表現すること。

本小単元では、工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸などの働きを調査したり、地図や地球儀、資料等を活用したりして調べ、それらは国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考えるようにすることをねらいとしている。

日本の工業生産を代表する自動車に対する社会や消費者のニーズは変わり続けている。本小単元では、社会や消費者の多様なニーズに合った自動車づくりに従事している人々の工夫や努力と、自動車生産を支える貿易や運輸などの働きを調べ、それらを国民生活との関連について考えられるようにするため、下記の内容を重点に教材化する。

- ・自動車は、国民生活や産業に役立っており、なくてはならないものであるという事実。
- ・自動車工場のまわりの様子が分かる資料と関連させ、自動車の外観、エンジンルーム、室内のインテリア等を観察し、自動車に関心を高めながら学習問題を作ること。
- ・自動車の組み立て工程における働く人々の工夫や努力、仕事に対する意識について、生産工程で工夫が見られる資料と働く人々の話の資料から課題追究すること。
- ・組立工場と周りにある部品工場などの関連工場が大きな一つの工場になっていることを、シート工場を事例にその流通について課題追究すること。
- ・生産された自動車工場が消費者のもとに届ける工夫や努力、また、近年増加してきた海外生産及びそのよさと工夫や努力について、統計資料や働く人々の話の資料などから課題追究すること。
- ・自動車の普及台数の増加に伴い、未来を見据えた環境や人に優しい自動車の開発が進められていることについて、教科書や自動車会社の資料をもとに調べ、生産者や消費者の立場などから多角的に考え、自分の考えをもてるようにすること。

### (2) 実践のポイントの学習評価との関連

- ・子供のパフォーマンスを適切に評価する教師の見取り

問題解決的な学習過程をとり、社会がわかり、社会にかかわる子供を育てるために、まず、社会的事象の見方・考え方を働かせ、社会的事象の特色や意味などの理解を深める。その際、社会的事象を自分事として捉え、自分なりの考えをもって主体的に追究できるようにする必要がある。

小単元の導入である「つかむ」段階では、自動車の生産に視点をもちさせるために自動車の部品を実物資料として提示し、部品そのものへの興味をもたせる。また、ガソリン車とハイブリットカーのボンネットの中を比較して見る活動を行う。この活動を行うことで、自動車のそのもの大きさや形、部品の違い、多さなどに気づかせ、その背後にいる自動車を生産する人の工夫や努力にも視点をもち

せることで主体的な学習が行えるようにする。

社会にかかわる子供を育てるために、第7時では学習したことをふまえて、自動車の生産には社会のニーズが関わっているという事実から未来の自動車づくりについて考える時間を設定している。未来の自動車を考えることにより、将来直面する課題やニーズについて捉え直し、子供達がこれから向かう社会にどのように関わっていくのか自分事として考える時間にする。この活動により、社会に見られる課題を把握し、社会との関わり方を選択・判断していく学習をする。

・努力を要する状況（C）の児童に対する指導、支援。

小単元の「調べる」段階では、理解を深めるために社会的事象の見方・考え方を働かせ、調べる活動を行う。その際、資料読み取りマニュアルを用いて、資料の読み取り方を習得させる。その上で、調べる時間を確保し、事実を丹念に調べる活動を行う。そして、調べた結果をお互いに聞き合うことにより、より良い考えを追究していく。これらの活動を通して問題を解決していくことで、社会的事象の特色や意味について理解を深める。

### 3 実践の内容

#### (1) 小単元の目標と評価規準

我が国の自動車生産について、製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめることで自動車生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現することを通して、自動車生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な努力や工夫をして、自動車生産を支えていることを理解できるようにする。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①自動車工業に関わる人々が、消費者や社会の多様なニーズに応え、環境に配慮しながら、優れた製品を生産するために様々な工夫や努力をしていることや貿易や運輸の働きが国民生活を支えていることを理解している。 ②自動車工業について、地図、統計などの各種の資料を活用して調べ、工業生産に従事している人々が製造の過程や製品の輸送などにおいて工夫や努力していることを読み取って、絵、文章、グラフなどにまとめている。	①自動車工業について、学習問題や予想、学習計画を考え、表現するとともに、工業生産に関わる人々が、消費者や社会のニーズに合った新しい技術の開発、資源の有効な利用の確保、環境への配慮などの工夫や努力をして、国民生活を支える役割を果たしていることについて考え、表現している。	①自動車工業に関心を持ち、自動車をつくる工業の製造の過程や製品の販売、輸送に見られる工夫などについて意欲的に調べるとともに、我が国の工業生産の発展について考えようとしている。

(2) 指導計画と評価計画（7時間）

※網掛けは、評価したことを記録に残す場面

○内の数字は時間を表す。

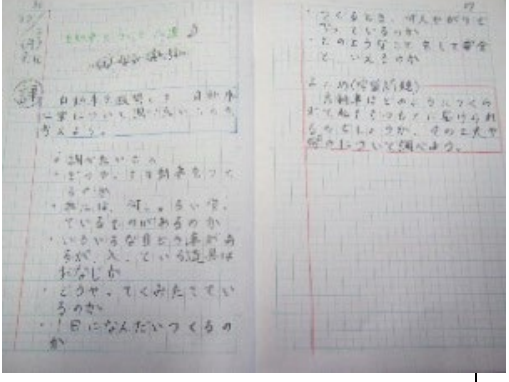
知：知識・技能 思：思考・判断・表現

〈 〉内は評価の方法を表す。

態：主体的に学習に取り組む態度

	学習活動・学習内容	評価の観点・内容 〈 〉 方法	資料
つ か む	① 自動車をつくる工業と生活との関わりを考える。	態① 自動車は、私たちの生活や産業に欠かせないものであり、どのような工夫をしてつくられ、どのようにして私たちのもとに届けられるか関心をもって いる。  〈ノート・発言〉	・自動車の普及率 ・工業生産額における輸送用機械の割合
	② エンジンルームを見る。 ・使われている部品はどのくらいあり、どのように取り付けるのか。 ・注文してから買った人に届くまで何日かかるか。  <b>実践のポイント(1)</b>	思① 調べてみたいことから学習問題を考え、表現している。 〈ノート・発言〉	・ハイブリット車 ・ガソリン車 ・自動車部品
	○学習問題をつくる。 — 学習問題 — 自動車はどのようにつくられ、私たちのもとに届けられるのか調べよう。		
調 べ る	③ 自動車の生産の過程における工夫や努力を調べ、分かったことをまとめる。 ・ロボットの活用 ・指示ビラ ・組み立てライン ・コンベヤー ・ひもスイッチ ・アンドン	知② 自動車工場を実際に見学したり、資料を効果的に活用したりして、調べたことから、働く人々の工夫や努力を読み取り、まとめることができる。 〈ノート・発言〉	・組み立て工場（見学）
	④ シート工場を調査したり、写真や映像などの資料を活用したりして、	知① 部品をつくる過程やその輸送について調べ、1台の自動車	・組み立て工場（見学）



	<p>自動車の部品がどのようにつくられ、組み立て工場へ運ばれているかを調べ、分かったことを発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組み立て工場</li> <li>・関連工場</li> </ul>	<p>をつくるために多くの工場が連携していることを理解している。〈ノート〉</p>	
	<p>⑤ 完成した自動車がどのようにして世界中の消費者の届けられるのか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トラック輸送</li> <li>・キャリアカー</li> <li>・現地生産</li> <li>・ニーズ</li> <li>・運搬船</li> </ul> <p><b>実践のポイント(2)</b></p>	<p><b>思①</b> 写真や映像、地図などの資料から、貿易や運輸の働きが、自動車工業を支えていることや、海外で現地生産することの良さについて考え、話し合っている。</p> <p>〈ノート・発言〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主な輸送先</li> <li>・キャリアカー</li> <li>・運搬船</li> </ul>
	<p>⑥ 人や環境に優しい自動車づくりには、どんな工夫や努力が大切なのかを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電気自動車</li> <li>・ハイブリットカー</li> <li>・自動車のリサイクル</li> </ul> <p><b>実践のポイント(2)</b></p> 	<p><b>知②</b> 自動車と環境問題や環境対策に関連する資料から必要な情報を収集し、環境に優しい自動車づくりの様子を読み取ってまとめている。</p> <p>〈ノート・発言〉</p> <p><b>思①</b> 自動車づくりを含む今後の工業生産の発展は、社会や消費者のニーズが大切であることを考え、工業生産に従事する人々の工夫や努力を理解している。〈ノート・発言〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハイブリットカー</li> <li>・電気自動車</li> <li>・衝突実験の様子</li> </ul>
<p>まとめ</p>	<p>⑦ 人や社会のニーズに合わせた自動車を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会のニーズ</li> </ul> <p><b>実践のポイント(2)</b></p> <p><b>学習問題の結論</b></p> <p><b>自動車の生産は、消費者や社会のニーズにこたえるために、自動車工業に携わる人々の工夫や努力によってつくられ、私たちのもとに届く。</b></p>	<p><b>思①</b> 社会のニーズに合わせた自動車を考え、表現している。</p> <p>〈学習カード〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> </ul>



## 4 実践結果と考察

### (1) 児童の関心・意欲を高めるための体験活動

小単元の導入で、実物の自動車部品を使い、クイズ形式で「これは何の部品でしょうか。」といった問いかけや「どこに使われている部品でしょうか。」という発問を通じて自動車への興味は高まっていた。「車の前の方を開けるとあるかもしれない。」という児童のつぶやきから、「では、実際にボンネットの中身を見て探してみましよう。」という活動に進み、さらに意欲的に自動車について調べる活動ができた。ボンネットの中を見ると、児童は部品の多さや自動車のエンジンの中の部品等、見えない部分にも部品が使われていることに興味をもつことができた。

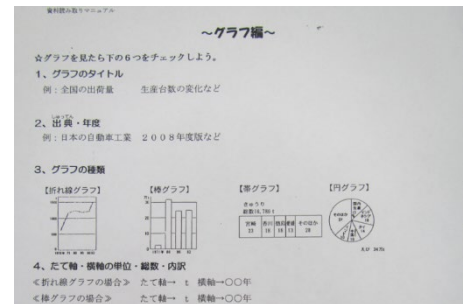
実物の資料を用意したことで児童は、普段の生活で見ないものに興味をもち、より観察しようとする意識が芽生えたと考える。さらにボンネットの中という日常では見ない部分を見るという活動にも興味をわいたと考えられる。



### (2) 資料を活用して事実を丹念に調べる時間の確保と支援の充実

資料を活用し、事実を丹念に調べる活動を行うことで、児童は目的意識をもって調べる活動を行うことができた。また、資料読み取りマニュアルを活用することで、学習に遅れをとる児童も安心して調べ活動を行うことができ、個人での調べ活動において効果があった。また、児童同士の意見を聞き合う活動には、自分だけの意見では不安な児童がおり、話し合い活動があることで自信をもって発表することができた。また、自分の意見と他人の意見を比べることでグループの意見としてさらにより良い意見をまとめる児童もいた。

事実を丹念に調べる時間を確保することで、児童は安心して調べることができたと考える。また、資料読み取りマニュアルの活用は、学習に遅れが見られる児童にとっては手助けとなり、一人で調べてみようという意欲につながったと考えられる。



## 5 研究の成果と今後の課題

### 〈成果〉

- ・児童の意欲を高める資料として、実物の自動車部品を用いたことは効果があった。
- ・実物を見せることで、普段の生活の中で見る自動車という意識ではなく、調べる対象としての意識をもって自動車を見ることができた。
- ・児童が思考する場、調べたいことや学びたいことを考える時間を確保することで、より多くの疑問を引き出すことができた。
- ・時間をかけて疑問をまとめたり、比較したりすることで中心概念に近づくことができた。

### 〈課題〉

- ・資料読み取りマニュアルについては今後、内容を検討し、資料別の読み取りマニュアルを増やしていく必要がある。
- ・話し合いでは一人の意見に流されることがあった。話し合いの方法については、より良い意見を構築できるように、今後検討していく必要がある。